

## **[成果情報名]バレイショ「アイマサリ」の4月収穫に適する種いも**

**[要約]**早掘りマルチ栽培においてバレイショ「アイマサリ」を4月下旬に収穫するための種いもは、単収 300kg/a 以上確保でき、塊茎の皮剥けもなく収穫できる一期作産が適する。また秋作産温蔵種いもは、収量において一期作産種いもと遜色ない。

**[キーワード]**バレイショ、アイマサリ、種いも、早掘りマルチ栽培

**[担当]**長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・馬鈴薯研究室

**[連絡先]**(直通)0957-36-0043

**[区分]**いも類

**[分類]**指導

**[作成年度]**2019 年度

---

### **[背景・ねらい]**

長崎県のバレイショは、トンネル栽培の減少によって4月の出荷量が減り、5月中下旬に出荷が集中しているため、4月出荷の割合を高めるための技術確立が求められている。本県が育成したバレイショ「アイマサリ」（長崎県育成、2017年品種登録出願公表）は、早期肥大性がある（坂本ら 2013年）ことから4月出荷に適すると考えられる。4月に収穫するためには、2月中下旬に出芽する必要があるが、この時期に出芽すると晩霜害に遭う可能性があるため、現地では防霜対策としてべたがけ被覆を行っている。また、使用する種いもによって生育の様相が異なる（向島ら 2004）ため、種いもの来歴は特に重要である。そこで、べたがけ被覆を行った上で、「アイマサリ」の4月収穫に適する種いもの来歴について検討する。

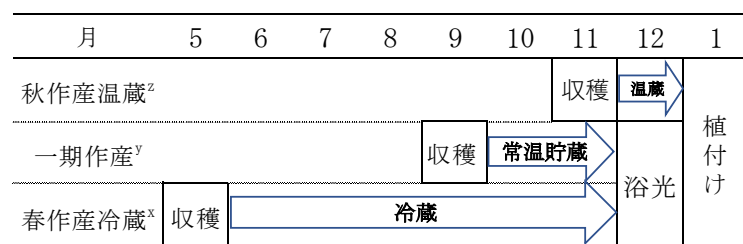
### **[成果の内容・特徴]**

1. 一期作産種いもは、長崎県農林業基準技術（長崎県農林部 2019）の早掘りマルチ栽培での単収目標値 300kg/a 以上を確保でき、塊茎の皮剥けも見られない（表 1、写真 1）。
2. 秋作産温蔵種いもは、単収 300kg/a 以上を確保でき、上いも平均重も重くなるが、塊茎の皮剥けがみられる（表 1、写真 1）。
3. 春作産冷蔵種いもは、他の来歴の種いもに比べて出芽期は早く、茎数は多くなる。また、上いも重および上いも平均重の年次変動が大きい（表 1）。

### **[成果の活用面と留意点]**

1. 本成果は、雲仙市や諫早市の飯盛地区を中心とした県南地域において、「アイマサリ」の4月下旬収穫に活用できる。
2. 本試験では、馬鈴薯研究室圃場において1月中旬に植付け、出芽後の3月上旬から4月初めまで PVA 割繊維不織布（ダイオ化成株式会社製）を被覆して行った。
3. 「アイマサリ」の一期作産種いもは令和2年より北海道に委託採種予定である。
4. 生育日数 55 日以下では皮剥けしやすいが、種いもとしての利用は可能である。

## [具体的データ]



<sup>2</sup>秋作産温蔵は26℃で加温貯蔵。

<sup>y</sup>一期作産は種いも到着後暗所で常温保存し、12月20日頃から植付けまで浴光。

<sup>x</sup>春作産冷蔵は3℃で冷蔵貯蔵し、12月20日頃から植付けまで浴光。

### [耕種概要]

	2018年	2019年
・植付け日	1月16日	1月16日
・マルチ被覆日	1月19日	1月21日
・べたがけ被覆日	3月7日	3月8日
・べたがけ除去日	4月2日	3月28日
・収穫日	4月28日	4月22日
・施肥量	(N-P-K)14-11.2-8.4kg/10a	
・栽植密度	666株/a(畦幅60cm×株間25cm)	

## [種いもの処理]

表1 種いもの来歴と生育および収量の関係

試験年次	種いもの来歴	出芽期 (月/日)	生育日数 (日)	茎長 (cm)	茎数 (本/株)	上いも数 (個/株)	上いも重 (kg/a)	上いも平均重 (g)	障害 <sup>w</sup> いも率 (%)	皮剥け <sup>v</sup> 程度
2018年	秋作産温蔵	3/6	a <sup>z</sup> 53	38 a	1.9 b	4.6 b	305 a	100 a	1.9 a	-
	一期作産	3/3	a 56	35 a	3.4 b	6.5 a	308 a	72 b	2.0 a	-
	春作産冷蔵	2/22	b 65	34 a	6.0 a	6.3 a	341 a	81 b	2.2 a	-
2019年	秋作産温蔵	2/26	a 55	28 a	2.4 c	5.3 a	333 a	94 a	4.8 a	2.2 a
	一期作産	2/16	b 65	21 a	6.1 b	5.9 a	316 a	80 b	9.4 a	0.7 b
	春作産冷蔵	2/9	c 72	21 a	9.3 a	6.6 a	292 a	67 c	3.1 a	0.4 b

<sup>z</sup>同列異符号間には5%水準で有意差あり(Tukey法)。

<sup>y</sup>生育日数は出芽期から収穫日までの日数。

<sup>x</sup>上いも重には障害いもが含まれる。

<sup>w</sup>障害いも率は二次生長、緑化いも、そうか病いも、裂開のいも数が上いも数に占める割合を示している。

<sup>v</sup>塊茎の皮剥け程度は2019年のみ調査し、値は15個/1区の3反復平均を示す。塊茎の表面積に対する皮剥け面積が0%を無(0)、5%未満を少(1)、5~15%を中(2)、16~25%を多(3)、26%以上を甚(4)として示している。



写真1 塊茎の皮剥け程度(2019年7月11日撮影)

## [その他]

研究課題名：4月出荷量増加のためのバレイショ「西海40号」の安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2018~2020年度

研究担当者：龍美沙紀、坂本悠、山田寧直、松尾祐輝、茶谷正孝